

〈基本情報〉

所在地：指宿市

年齢：44歳（H30.2就農）

〈経営概要〉

品目：露地野菜、施設野菜

面積：露地野菜 オクラ 40a、スナップエンドウ 30a、
ブロッコリー 20a、そら豆 15a、
実エンドウ 10a、きぬさや 3a
施設野菜 オクラ 15a、スナップエンドウ 15a



ロゴマーク
(はっぴーチャイルド
どべじたぶる)

〈就農のきっかけ〉

指宿市内で約20年、看護師として勤めていたが、中間管理職となり上下関係で非常に辛い思いをしていた。そんな時期に知り合いの先輩が楽しそうに農業をされている姿、生き生きとしている様子を見て就農しようと思った。看護師だった妻が、私より1年先に退職し農業を始め、周りからの反対もあったが、悩んだ末に2人で農業を頑張ろうと決意し、平成30年2月に就農した。

① 就農から現在までの状況

〈就農時〉

- ・先輩がオクラを作っていたことと、JAからオクラと豆類は確実に収入が得られると勧められ、指宿の名産であるオクラを栽培することにした。
- ・農地は、知人や近隣の離農者から借り受け、ハウスを建てた土地は農業委員会からの斡旋により購入した。
- ・就農時に離農者からトラクターや動力噴霧器等、一式を安価で譲り受けた。

〈現在〉

- ・収益も多少良くなり、豆類の芽かき、収穫のためのアルバイトを雇えるようになった。
- ・妻がロゴマークを作成。妻の名前が幸子なのでハッピーチャイルドの英文字をデザインし、栽培しているスナップエンドウと飼っているネコのイラストを入れている。物産館等に出荷する野菜の袋にロゴマークを貼っており、生産した農作物のブランド化を図っている。



露地オクラ

② これまで苦労した点

- ・就農当初は、土地探しに苦労した。また、収入が少なく、更に前職の収入に対する税金を妻の分も含め2年間支払うことになったため金銭的に非常に苦しく、新規就農者助成金の150万円ですべてのしかなかった。
- ・オクラは、気象条件により急激に成長するため、収穫が追いつかないことがあった。人を雇えなかったので夜中の3時から収穫していた。

③ 就農して良かった点

- ・元々色白だったが、日に焼け心も身体もとても元気になった。また、農業に関わる様々な喜びを感じている。
- ・看護師の頃は休暇が取れなかったが、農業は時間の融通がきくので、子供のスポーツ観戦もできる。
- ・夫婦の会話が増え、更に仲良くなった。1人では気付かなかったことが、2人だと補い合って改善策が見えてくる。妻の細やかな目線、気付きに感心することもある。

④ 今後の目標

- ・妻と二人でやっていける面積で、単収の向上を目指したい。
- ・4月から出荷できる早出しオクラは、露地オクラより高値で売れるためハウスを増設する予定である。
- ・1年を通して収入を得られるよう、栽培方法、作物の種類、栽培時期等を工夫したい。
- ・固定客も掴みつつあり、今後は販路拡大のために通信販売を考えている。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・土地と自己資金は必要であり、確保したうえで（確保する目処が立ってから）就農すること。
- ・自分が栽培する作物の生態、特徴をしっかりとっておく必要がある。
- ・可能であれば、農業大学校等である程度の知識を得ておいた方がよい。また、知識と遭遇する現実には大きな違いがあるので、農業体験も大切である。

＜基本情報＞

所在地：西之表市

年齢：35歳（R2.6就農）

＜経営概要＞

品目：花木

面積：ヒサカキ 1 ha、

□ベ（フェニックスロベニー） 30a



出荷用に調整中のヒサカキ

＜就農のきっかけ＞

島外で会社勤めをしていたが、父親からの誘いと妻の後押しがあって、農業を始めることを決断し、4年前に帰郷。種子島営農学校で2年間の研修（1年目は県・JA等の講師による基礎研修、2年目は指導農業士宅での現地研修）を経て、令和2年6月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・農地は、祖父所有の土地を借りている。
- ・西之表市ではヒサカキを栽培する人が少なく、栽培マニュアルもなかったため、独学と隣接する町の栽培農家に相談する等、試行錯誤しながら栽培技術の向上に努めている。
- ・□ベは、種子島営農学校の現地研修でお世話になった指導農業士から栽培技術を学んでいる。
- ・トラクターは父親から譲り受け、出荷前の一時保存に必要な冷蔵庫は自己資金で購入し設置した。
- ・現在、新規就農者助成金、受給中である。



ヒサカキのほ場

＜現在＞

- ・ヒサカキ1,000～2,000本、□ベ500枚ほどを週2回出荷している。
- ・出荷量を確保するため、令和3年10月にヒサカキの組合を設立した。
- ・就農1年目は収入がなく経営に苦労したが、栽培方法や作業工程を試行錯誤した結果、2年目からは安定している。
- ・経営を安定させるために他品目を試験的に栽培する等、常に先を見据えた取組を行っている。

② これまで苦労した点

- ・ヒサカキについては、種子島版の栽培マニュアルがなかったこと。そのため、自分と先輩農家の経験をデータ化し、試行錯誤しながら自分自身に合った栽培体系の確立を目指している。
- ・生産したものを島内から本土へ海上輸送する際に冷蔵ができないことが課題である。

③ 就農して良かった点

- ・単純に楽しい。仕事以外の時もヒサカキのことを毎日考えている。ヒサカキの作業は好きで、全く苦にならない。

④ 今後の目標

- ・ヒサカキの栽培マニュアル（種子島版）を市役所やJA等と連携して作成し、市内のヒサカキ栽培農家や、これから栽培を考えている方に対して配布していきたい。
- ・マニュアルを作成・配布することで、市内全体の栽培技術の高位平準化を図り、西之表ヒサカキのブランド化に取り組んでいきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・新規就農者助成金を受給している期間に、経営基盤を確立できるよう努力を惜しまないでほしい。
- ・農業は、最初に経営基盤をしっかり確立できれば稼げる職業である。自分の育てたものが、結果となって返ってくる喜びを実際に体感してほしい。
- ・無理に規模拡大を目指さなくても自分の生活スタイルに合わせた計画が立てられることも魅力である。
- ・受身にならず主体性を持って、自分から行動することが大事である。

＜基本情報＞

所在地：垂水市
年 齢：38歳（H30.3就農）

＜経営概要＞

品目：かんしょ（紅はるか他）
面積：かんしょ 120a



つらさげ芋

＜就農のきっかけ＞

平成29年に「つらさげ芋（収穫したかんしょをつるごと吊るして熟成させた芋）」に出会い、焼き芋にして食べたところあまりのおいしさに衝撃を受け、「つらさげ芋」の焼き芋を、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと強く思い、平成30年3月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・平成29年に勤めていた銀行を退職し、平成30年に「つらさげ芋」の産地である垂水市の大野原地区で就農した。
- ・親から資金援助を受けつつ、農地は農地中間管理機構を通じて借り受け、機械は近隣農家から中古品を譲り受けた。また、新規就農者助成金を活用している。
- ・農地は長年耕作していない状態であったため、近隣の農家に助けをもらいながら整地を行った。

＜現在＞

- ・生産した青果用かんしょと焼き芋は、7割程度を妻が管理する鹿児島市の直営店舗で販売し、残りの3割は県内外の業者に販売している。また、焼き芋アイスはアイスクリーム専門業者に委託して加工を行い、販売している。



かんしょの収穫

② これまで苦労した点

- ・農業専門の学校で修学することなく就農したことから、就農当初は手探りの状態での営農であった。
- ・農業収入は就農当初から順調に増えているが、近年はサツマイモ基腐病の発生により収入が減少している。

③ 就農して良かった点

- ・自分で栽培した農産物を自分で売ることができることが最大の魅力で、販売後に言葉にならない達成感が味わえる。
- ・農産物を販売する時に、消費者と直接話をする機会が増え、人との繋がりが広がった。

④ 今後の目標

- ・サツマイモ基腐病対策として、バイオ苗の導入及び適正防除を行うとともに、リスク分散のため多品目の生産にもチャレンジし、将来的には規模拡大及び作付品目の多角化を目指したい。
- ・当地域は過疎が進んでいることから、法人化に取り組み雇用創出による地域の活性化を目指したい。
- ・SNSを活用し、かんしょ栽培の作業風景や製品情報の発信を行っている。今後も継続して消費者の動向を把握し、更なる販路拡大を目指したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・近隣の農家の方々の手厚い援助を受けながら就農することができた。就農を目指す方は人との繋がりを大切に、地元に着目した農業者を目指してほしい。
- ・近年は経済状況等がめまぐるしく変化することから、こまめに情報収集を行い農業経営に繋げてほしい。
- ・消費者へ生産現場の状況及び生産した商品の情報提供を行うことは販路拡大に繋がると考えるので、SNSを活用した情報発信を行ってほしい。

＜基本情報＞

所在地：薩摩川内市
年 齢：24歳（R3.6就農）

＜経営概要＞

品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛 11頭
子牛 8頭
飼料作物 3ha



繁殖牛舎

＜就農のきっかけ＞

小さい頃から牛の繁殖を行う祖父母の姿を見ており、自分も牛飼いをやるのが夢だった。市来農芸高校と北海道酪農大学で繁殖を学び、牛飼いの夢を叶えるために帰郷し、令和3年6月に就農した。

① 就農から現在までの状況

〈就農時〉

- ・牛舎は祖父の代からのものを使用している。
- ・トラクター、ラッピングマシン等は祖父が購入したものを使用している。
- ・3haの農地は祖父の所有地と近所の農家からの借り受け。
- ・技術的な部分はJAの営農指導員、祖父、近所の繁殖農家に相談した。

〈現在〉

- ・認定新規就農者であり、新規就農者助成金を受給している。
- ・農地3haに春はイタリアンライグラス、夏にローズグラスを栽培して乾草ロールにしており、粗飼料自給率100%である。また、稲わらは、近所の農家が集めたものを購入しており100%国産である。



粗飼料の乾草ロール

② これまで苦労した点

- ・就農当初は、子牛が下痢をするなど発育がよくなかった。マニュアル通りではなく、1頭1頭きめ細かな餌の配合などに気を付けないといけないと感じた。
- ・資材等の高騰。特に飼料価格が高騰していること。

③ 就農して良かった点

- ・小さい頃から牛飼いをやりたいと思っており、その夢が叶って嬉しい。
- ・飼養管理は毎日行わなければならないが、自分で時間の調整ができるところ。

④ 今後の目標

- ・牛舎を新規に建て、まずは飼養頭数を一人で管理できる70～80頭まで増頭したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・地元の人とのコミュニケーションを取ること。稲わらを分けてもらえるのは、日々の付き合いで良好な関係を築けているからである。

<基本情報>

所在地：曾於市

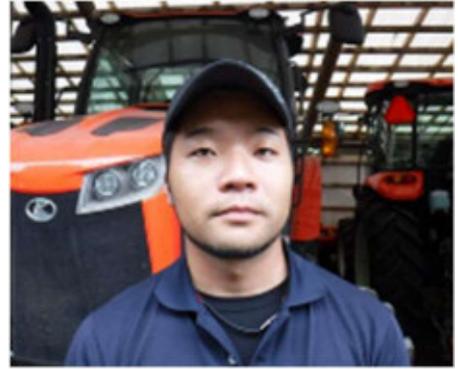
年齢：22歳（H31.4就農）

<経営概要>

品目：肉用牛（繁殖）

経営規模：繁殖雌牛 22頭、育成牛 2頭、子牛 15頭

飼料作物（イタリアン）5ha

**<就農のきっかけ>**

小さい頃から身近に牛がいて、高校に進学してから畜産への興味が深まった。その後、宮崎大学畜産別科へ進学し、1年間修学したことで更に就農への意欲が高まり、平成31年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況**<就農時>**

- 宮崎大学畜産別科を修了後に平成31年から親元で就農し、両親が行っている繁殖経営に参加して少しずつ経験を積んだ。

<現在>

- 現在は母牛22頭を所有しており、毎年更新しながら少しずつ増頭している。



牛舎

② これまで苦労した点

- 冬場の下痢対策や夏場の温度管理等、個体管理が大変である。
- 監視カメラを導入し、映像で24時間牛を確認できるよう個体管理に気を配っている。

③ 就農して良かった点

- 農業を通じて地域の方と繋がりを持つことで、自分の経営にもプラスになっている。
- 地域の畜産農家と共同で除角作業を行い、地域に貢献できること。

④ 今後の目標

- 母牛の更新と増頭を行いながら牛舎を増築し、5年後には飼養頭数を50頭まで増頭したい。
- 経営安定を図るためにも、個体管理に気を配って、病気や事故が発生しないようにしたい。
- 化学肥料は使用せず、堆肥を利用した資源循環型の飼料作物の生産を継続していく。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- 生き物を相手にした大変な仕事だが、自分が世話をして成長した子牛が高値で売れた時の喜びは大きく、やりがいがある。
- 自分一人では畜産経営は出来ないなので、両親や地域の人々との繋がりを大切に、みんなの力を借りながら農業経営に取り組んで欲しい。